

2025年度（令和7年度）
卒業生の就職先等への意見聴取アンケート
分析結果

調査概要

1) 調査の目的

本学のディプロマ・ポリシーに基づき育成された学修成果について、卒業生の就職先企業・団体における評価を通じて、社会における発揮状況および妥当性を検証するとともに、教育内容およびキャリア支援の改善に資することを目的として実施した。

2) 調査方法

本学卒業生を採用している企業・団体の人事担当者に対し、メールおよび郵送により調査依頼を行い、Microsoft Formsを用いたオンライン形式によりアンケートを実施した。

3) 調査時期

2026年2月4日(水)～3月20日(金)

4) 調査対象者

本学卒業生が在籍している企業・団体の人事担当者

5) 回答数・回答率

業種	調査 案内数	回答件数	回答率
全体	254	137	54%
教育・学習支援業	73	40	55%
情報通信業	4	1	25%
医療・福祉業	14	10	71%
金融・保険業	20	13	65%
公務	44	14	32%
製造業	27	17	63%
建設業	7	5	71%
卸売・小売業	44	27	61%
サービス業	20	7	35%
不動産	8	1	13%
電気・ガス・水道等	1	1	100%
運輸業	2	1	50%

6) 集計データについて

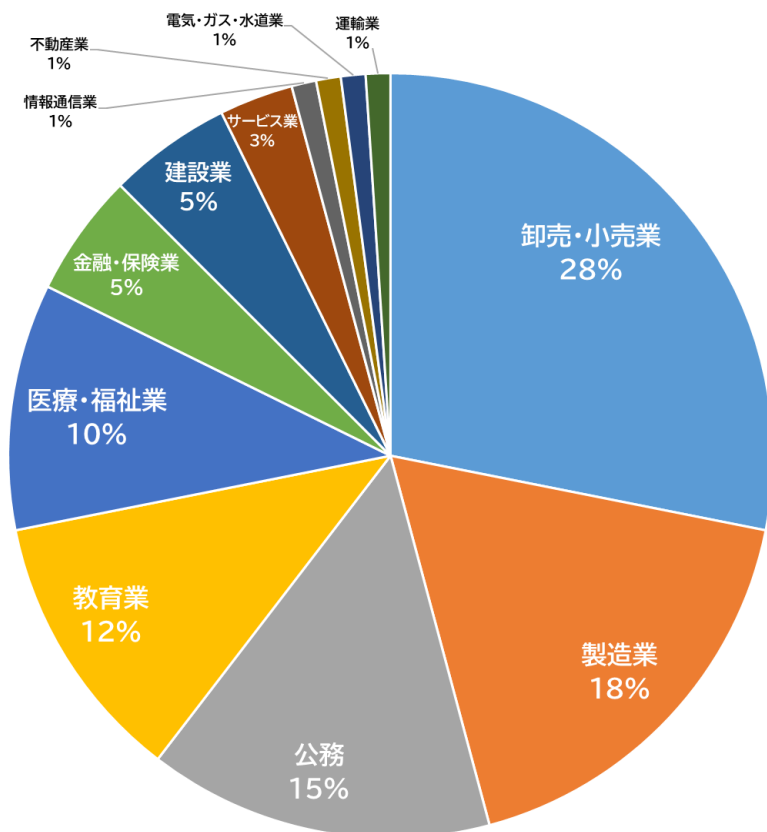
各設問の割合(%)は当該設問の回答者数(n)を母数として算出している。
割合は小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある。

基本情報（業種・本学出身者の人数）

依頼先254件に対し、回答数が137件と約5割からの回答が得られた。その業種も、各学部の特徴を反映した企業や公務・学校関係にとどまらず、様々な業種からの回答を得ることができた。卒業生の在籍数については、10名以下との回答が半数以上であるが、10名を超えるとの回答も40%以上あり、本学の卒業生が各業種から信頼され継続的な採用につながっているものと判断できる。

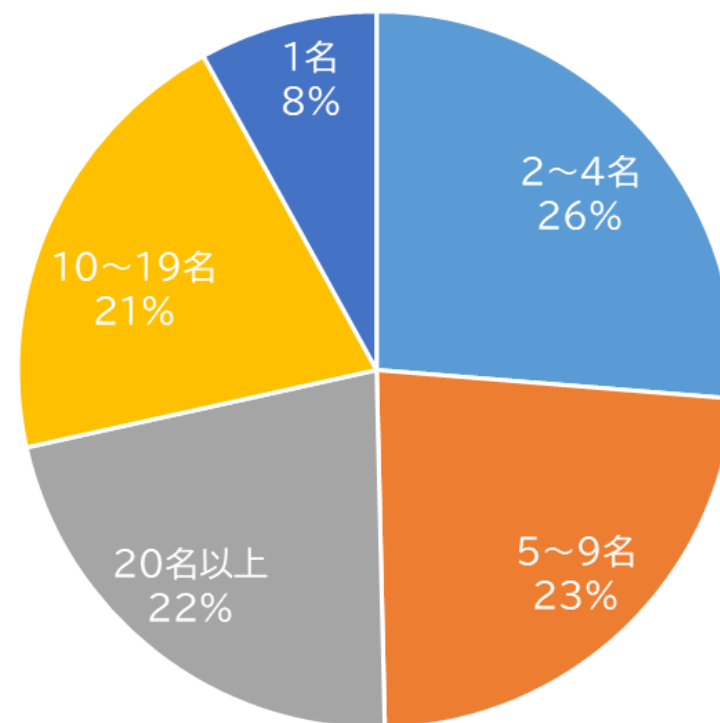
Q1. 貴社の業種を教えてください。

n=137



Q2. 現在、貴社に在籍している本学出身者（卒業・修了を含む）の人数を教えてください。

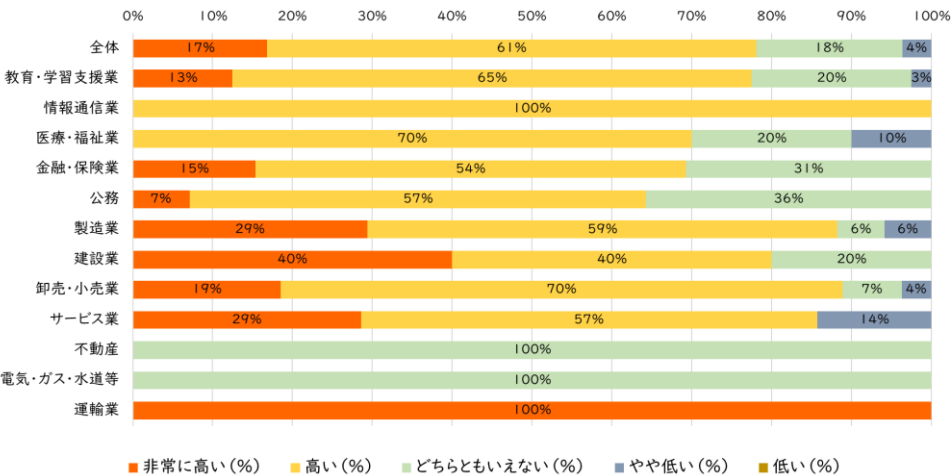
n=137



DP①自律性・教養・柔軟な思考力の達成状況

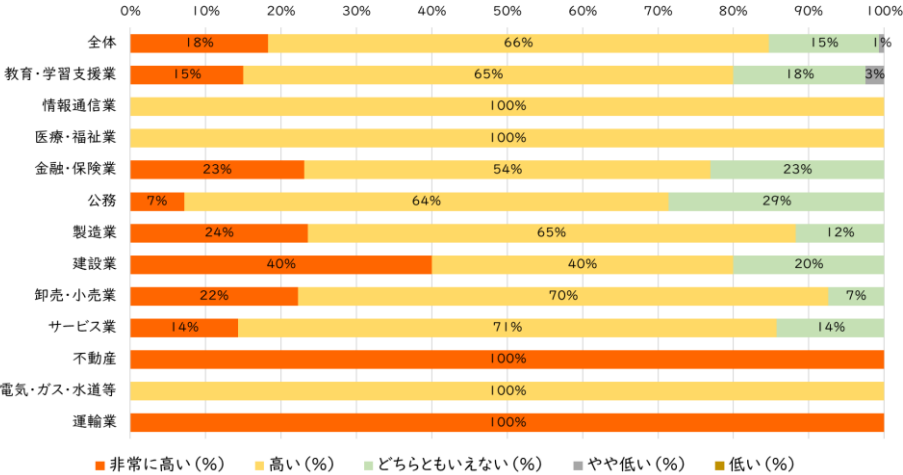
主体性・積極性および自立性・責任感について、全体では「非常に高い」もしくは「高い」と評価されている割合は75%を超えており、概ねその水準に達しているものと評価できる。詳細に見てみると、教育・学習支援業、製造業、建設業、卸売・小売業サービス業で高く評価されているが、金融・保険業および公務でやや低くなっているものの、どの業種においても問題ない状況であると判断できる。

Q3. 次の力について、本学卒業生の水準をどのように評価されますか？【主体性・積極性】



	非常に高い (%)	非常に高い (人)	高い (%)	高い (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	やや低い (%)	やや低い (人)	低い (%)	低い (人)	全体 (%)	全体人数 (人)
全体	17%	23	61%	84	18%	25	4%	5	0%	0	100%	137
教育・学習支援業	13%	5	65%	26	20%	8	3%	1	0%	0	100%	40
情報通信業	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1
医療・福祉業	0%	0	70%	7	20%	2	10%	1	0%	0	100%	10
金融・保険業	15%	2	54%	7	31%	4	0%	0	0%	0	100%	13
公務	7%	1	57%	8	36%	5	0%	0	0%	0	100%	14
製造業	29%	5	59%	10	6%	1	6%	1	0%	0	100%	17
建設業	40%	2	40%	2	20%	1	0%	0	0%	0	100%	5
卸売・小売業	19%	5	70%	19	7%	2	4%	1	0%	0	100%	27
サービス業	29%	2	57%	4	0%	0	14%	1	0%	0	100%	7
不動産	0%	0	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	100%	1
電気・ガス・水道等	0%	0	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	100%	1
運輸業	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1

Q3. 次の力について、本学卒業生の水準をどのように評価されますか？【自立性・責任感】

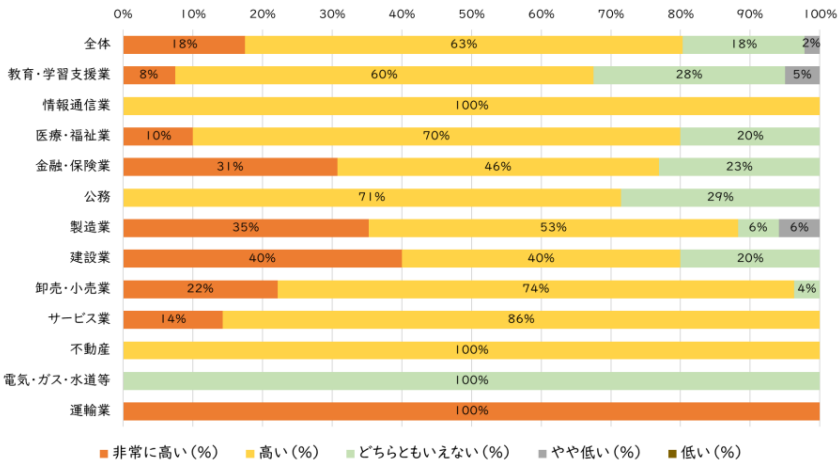


	非常に高い (%)	非常に高い (人)	高い (%)	高い (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	やや低い (%)	やや低い (人)	低い (%)	低い (人)	全体 (%)	全体人数 (人)
全体	18%	25	66%	91	15%	20	1%	1	0%	0	100%	137
教育・学習支援業	15%	6	65%	26	18%	7	3%	1	0%	0	100%	40
情報通信業	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1
医療・福祉業	0%	0	100%	10	0%	0	0%	0	0%	0	100%	10
金融・保険業	23%	3	54%	7	23%	3	0%	0	0%	0	100%	13
公務	7%	1	64%	9	29%	4	0%	0	0%	0	100%	14
製造業	24%	4	65%	11	12%	2	0%	0	0%	0	100%	17
建設業	40%	2	40%	2	20%	1	0%	0	0%	0	100%	5
卸売・小売業	22%	6	70%	19	7%	2	0%	0	0%	0	100%	27
サービス業	14%	1	71%	5	14%	1	0%	0	0%	0	100%	7
不動産	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1
電気・ガス・水道等	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1
運輸業	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1

DP①自律性・教養・柔軟な思考力の達成状況

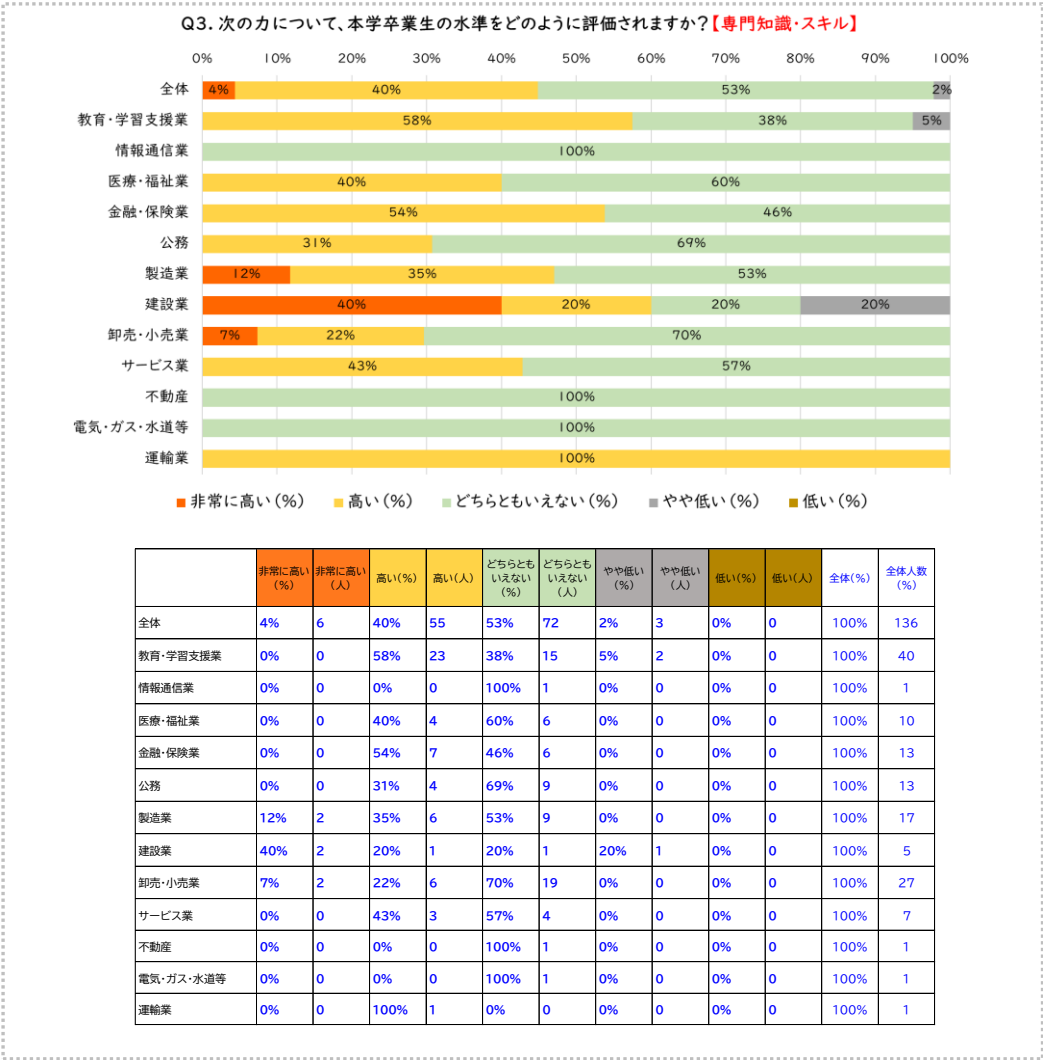
全体では「非常に高い」もしくは「高い」と評価されている割合は80%を超えており、概ねその水準に達しているものと評価できる。教育・学習支援業でやや低い（68%）ものの、その他の業種では70%以上となっており、製造業、卸売・小売業およびサービス業では特に高評価である。総じて、どの業種においてもほぼ問題ない状況であると判断できる。

Q3. 次の力について、本学卒業生の水準をどのように評価されますか？【柔軟性・適応力】



	非常に高い (%)	非常に高い (人)	高い (%)	高い (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	やや低い (%)	やや低い (人)	低い (%)	低い (人)	全体 (%)	全体人数 (%)
全体	18%	24	63%	86	18%	24	2%	3	0%	0	100%	137
教育・学習支援業	8%	3	60%	24	28%	11	5%	2	0%	0	100%	40
情報通信業	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1
医療・福祉業	10%	1	70%	7	20%	2	0%	0	0%	0	100%	10
金融・保険業	31%	4	46%	6	23%	3	0%	0	0%	0	100%	13
公務	0%	0	71%	10	29%	4	0%	0	0%	0	100%	14
製造業	35%	6	53%	9	6%	1	6%	1	0%	0	100%	17
建設業	40%	2	40%	2	20%	1	0%	0	0%	0	100%	5
卸売・小売業	22%	6	74%	20	4%	1	0%	0	0%	0	100%	27
サービス業	14%	1	86%	6	0%	0	0%	0	0%	0	100%	7
不動産	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1
電気・ガス・水道等	0%	0	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	100%	1
運輸業	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1

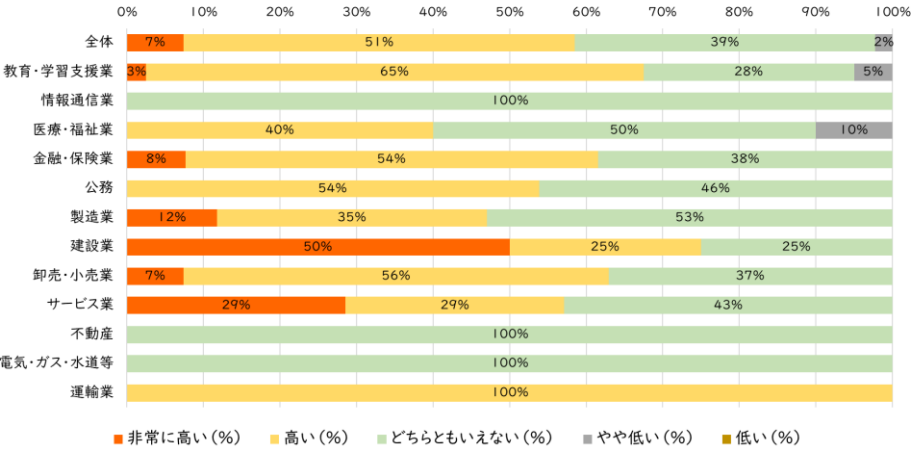
全体では「非常に高い」もしくは「高い」と評価されている割合が半数以下であり、専門知識やスキルが要求水準に達していないものが多いと判断できる。教育・学習支援業、金融・保険業、製造業および建設業ではかろうじて50%を超えるものの、その他の業種は40%程度と低迷している。一方で、「どちらともいえない」という回答が半数を超えていることから、必ずしも専門知識や技能がないと判断されているわけではないともいえる。つまり、「仕事に必要な専門知識は現場で身につける」という状況を暗示していると推測できる。



DP②情報活用力・発信力

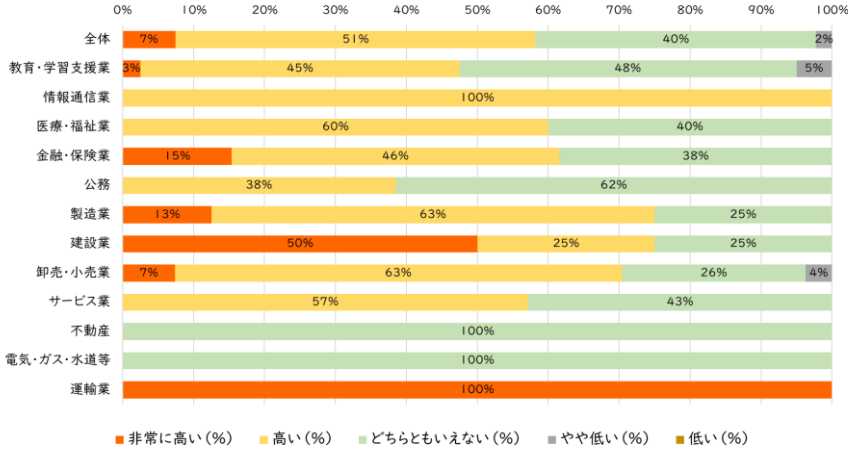
全体では「非常に高い」もしくは「高い」と評価されている割合がいずれも6割弱であり、「どちらともいえない」が約4割である。「情報活用力・発信力」は、教育・学習支援業および建設業で70%程度で高い傾向にある一方、医療・福祉業で40%と評価が低い。「論理的思考力・課題解決力」は、製造業、建設業および卸売・小売業で70%以上で高い傾向である一方、教育・学習支援業は50%未満、そして公務は40%未満と評価が低い。いずれの能力も、現代社会に生きる社会人にとって不可欠な能力であり、その習得を促すための教育・支援体制の更なる強化が求められる。

Q3. 次の力について、本学卒業生の水準をどのように評価されますか？【情報活用力・発信力】



	非常に高い (%)	非常に高い (人)	高い (%)	高い (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	やや低い (%)	やや低い (人)	低い (%)	低い (人)	全体 (%)	全体人数 (人)
全体	7%	10	51%	69	39%	53	2%	3	0%	0	100%	135
教育・学習支援業	3%	1	65%	26	28%	11	5%	2	0%	0	100%	40
情報通信業	0%	0	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	100%	1
医療・福祉業	0%	0	40%	4	50%	5	10%	1	0%	0	100%	10
金融・保険業	8%	1	54%	7	38%	5	0%	0	0%	0	100%	13
公務	0%	0	54%	7	46%	6	0%	0	0%	0	100%	13
製造業	12%	2	35%	6	53%	9	0%	0	0%	0	100%	17
建設業	50%	2	25%	1	25%	1	0%	0	0%	0	100%	4
卸売・小売業	7%	2	56%	15	37%	10	0%	0	0%	0	100%	27
サービス業	29%	2	29%	2	43%	3	0%	0	0%	0	100%	7
不動産	0%	0	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	100%	1
電気・ガス・水道等	0%	0	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	100%	1
運輸業	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1

Q3. 次の力について、本学卒業生の水準をどのように評価されますか？【論理的思考力・課題解決力】

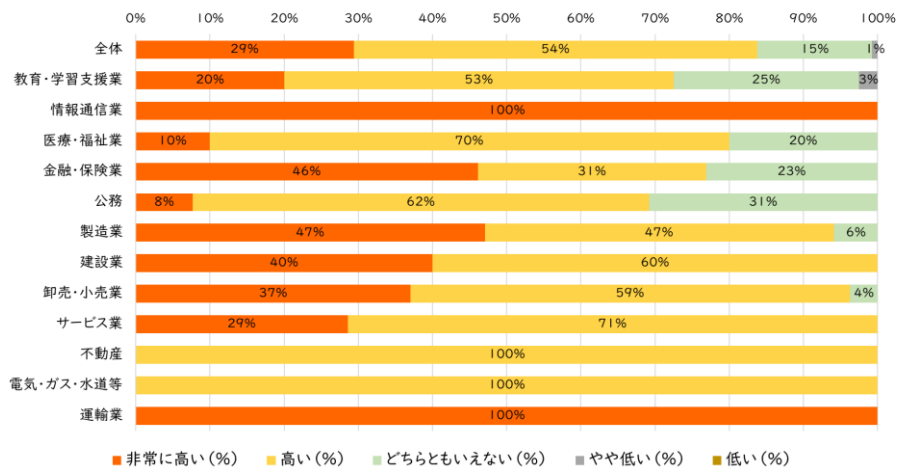


	非常に高い (%)	非常に高い (人)	高い (%)	高い (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	やや低い (%)	やや低い (人)	低い (%)	低い (人)	全体 (%)	全体人数 (人)
全体	7%	10	51%	68	40%	53	2%	3	0%	0	100%	134
教育・学習支援業	3%	1	45%	18	48%	19	5%	2	0%	0	100%	40
情報通信業	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1
医療・福祉業	0%	0	60%	6	40%	4	0%	0	0%	0	100%	10
金融・保険業	15%	2	46%	6	38%	5	0%	0	0%	0	100%	13
公務	0%	0	38%	5	62%	8	0%	0	0%	0	100%	13
製造業	13%	2	63%	10	25%	4	0%	0	0%	0	100%	16
建設業	50%	2	25%	1	25%	1	0%	0	0%	0	100%	4
卸売・小売業	7%	2	63%	17	26%	7	4%	1	0%	0	100%	27
サービス業	0%	0	57%	4	43%	3	0%	0	0%	0	100%	7
不動産	0%	0	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	100%	1
電気・ガス・水道等	0%	0	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	100%	1
運輸業	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1

DP③社会・地域への貢献力

全体では、「協調性・チームワーク」については8割以上、また、基本的なビジネスマナーについても7割以上が高く評価している。「協調性・チームワーク」は多くの業種で90%以上の高い評価が得られている一方、教育・学習支援業と公務で70%前後とやや低調である。この傾向は「基本的なビジネスマナー」についても見られ、学習支援業が60%弱、そして公務が54%と低調である。これらの業種では特に対人業務が中心となるため、就職前の段階から基礎能力を確実に習得できるよう、指導の強化が必要であると考えられる。

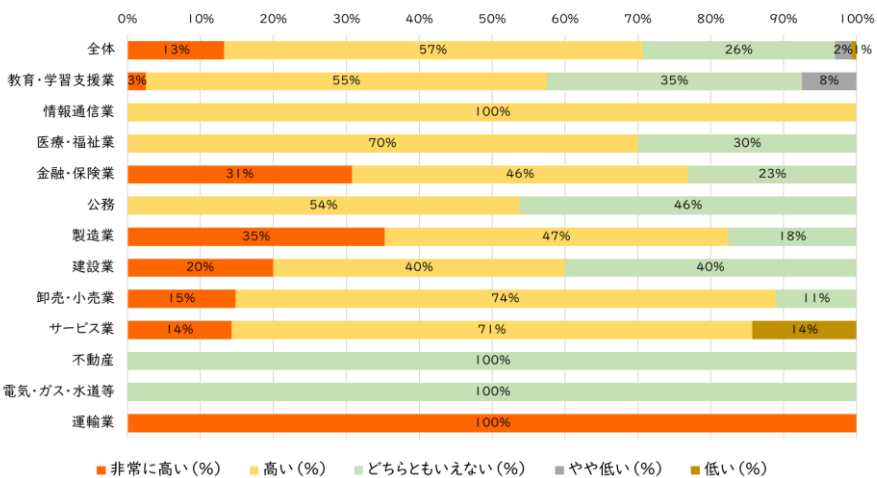
Q3. 次の力について、本学卒業生の水準をどのように評価されますか？【協調性・チームワーク】



■非常に高い (%) ■高い (%) ■どちらともいえない (%) ■やや低い (%) ■低い (%)

	非常に高い (%)	非常に高い (人)	高い (%)	高い (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	やや低い (%)	やや低い (人)	低い (%)	低い (人)	全体 (%)	全体人数 (人)
全体	29%	40	54%	74	15%	21	1%	1	0%	0	100%	136
教育・学習支援業	20%	8	53%	21	25%	10	3%	1	0%	0	100%	40
情報通信業	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1
医療・福祉業	10%	1	70%	7	20%	2	0%	0	0%	0	100%	10
金融・保険業	46%	6	31%	4	23%	3	0%	0	0%	0	100%	13
公務	8%	1	62%	8	31%	4	0%	0	0%	0	100%	13
製造業	47%	8	47%	8	6%	1	0%	0	0%	0	100%	17
建設業	40%	2	60%	3	0%	0	0%	0	0%	0	100%	5
卸売・小売業	37%	10	59%	16	4%	1	0%	0	0%	0	100%	27
サービス業	29%	2	71%	5	0%	0	0%	0	0%	0	100%	7
不動産	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1
電気・ガス・水道等	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1
運輸業	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1

Q3. 次の力について、本学卒業生の水準をどのように評価されますか？【基本的なビジネスマナー】



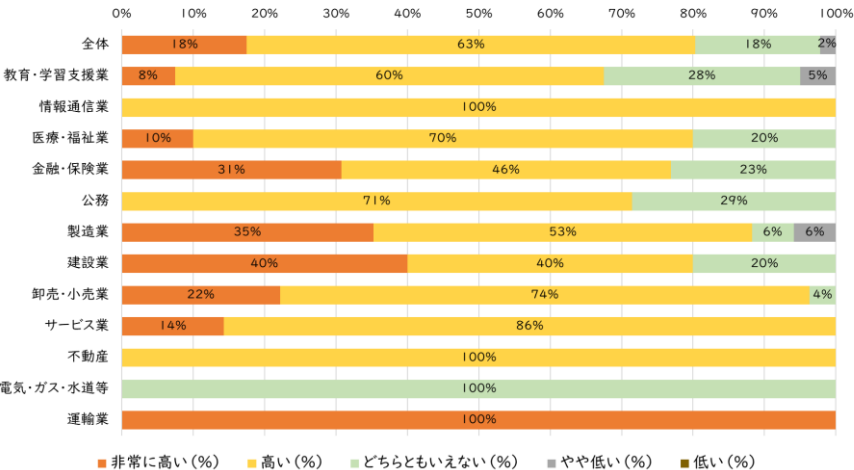
■非常に高い (%) ■高い (%) ■どちらともいえない (%) ■やや低い (%) ■低い (%)

	非常に高い (%)	非常に高い (人)	高い (%)	高い (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	やや低い (%)	やや低い (人)	低い (%)	低い (人)	全体 (%)	全体人数 (人)
全体	13%	18	57%	78	26%	36	2%	3	1%	1	100%	136
教育・学習支援業	3%	1	55%	22	35%	14	8%	3	0%	0	100%	40
情報通信業	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1
医療・福祉業	0%	0	70%	7	30%	3	0%	0	0%	0	100%	10
金融・保険業	31%	4	46%	6	23%	3	0%	0	0%	0	100%	13
公務	0%	0	54%	7	46%	6	0%	0	0%	0	100%	13
製造業	35%	6	47%	8	18%	3	0%	0	0%	0	100%	17
建設業	20%	1	40%	2	40%	2	0%	0	0%	0	100%	5
卸売・小売業	15%	4	74%	20	11%	3	0%	0	0%	0	100%	27
サービス業	14%	1	71%	5	0%	0	0%	0	14%	1	100%	7
不動産	0%	0	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	100%	1
電気・ガス・水道等	0%	0	0%	0	100%	1	0%	0	0%	0	100%	1
運輸業	100%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	100%	1

DP④国際的視野と将来を展望する力

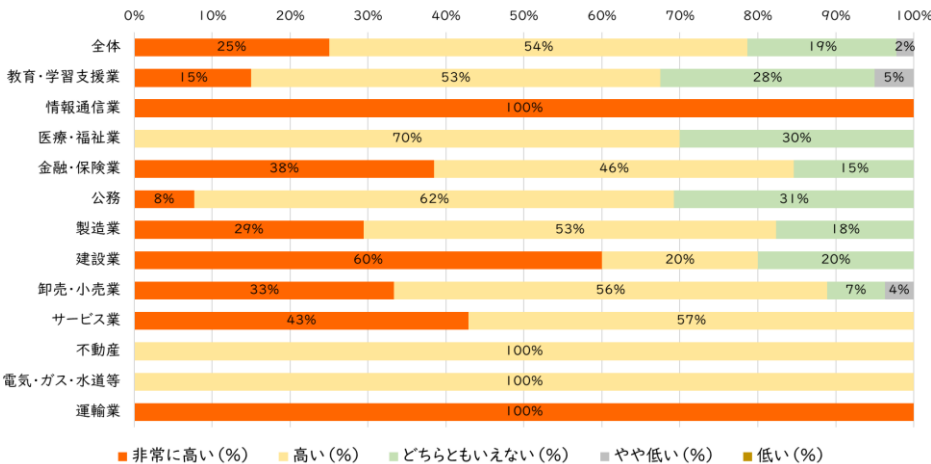
全体では、いずれの項目についても8割程度が高く評価している。「柔軟性・適応力」については、多くの業種で80%以上の高い評価が得られている一方、教育・学習支援業と公務で70%前後とやや低い。この傾向は「コミュニケーション力」についても同様であり、教育・学習支援業、公務および医療・福祉業で70%前後となった。これらの数値は決して低いものではないものの、他業種と比較すると改善の余地がある。就職前の段階から、座学のみならず実践的な演習や多様な対人経験を通じ、これらの基礎能力を養う機会をより一層充実させる必要がある。

Q3. 次の力について、本学卒業生の水準をどのように評価されますか？【柔軟性・適応力】



	非常に高い (%)	非常に高い (人)	高い (%)	高い (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	やや低い (%)	やや低い (人)	低い (%)	低い (人)	全体 (%)	全体人数 (人)
全体	18	24	63	86	18	24	2	3	0	0	100	137
教育・学習支援業	8	3	60	24	28	11	5	2	0	0	100	40
情報通信業	0	0	100	1	0	0	0	0	0	0	100	1
医療・福祉業	10	1	70	7	20	2	0	0	0	0	100	10
金融・保険業	31	4	46	6	23	3	0	0	0	0	100	13
公務	0	0	71	10	29	4	0	0	0	0	100	14
製造業	35	6	53	9	6	1	6	1	0	0	100	17
建設業	40	2	40	2	20	1	0	0	0	0	100	5
卸売・小売業	22	6	74	20	4	1	0	0	0	0	100	27
サービス業	14	1	86	6	0	0	0	0	0	0	100	7
不動産	0	0	100	1	0	0	0	0	0	0	100	1
電気・ガス・水道等	0	0	0	0	100	1	0	0	0	0	100	1
運輸業	100	1	0	0	0	0	0	0	0	0	100	1

Q3. 次の力について、本学卒業生の水準をどのように評価されますか？【コミュニケーション力】



	非常に高い (%)	非常に高い (人)	高い (%)	高い (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	やや低い (%)	やや低い (人)	低い (%)	低い (人)	全体 (%)	全体人数 (人)
全体	25	34	54	73	19	26	2	3	0	0	100	136
教育・学習支援業	15	6	53	21	28	11	5	2	0	0	100	40
情報通信業	100	1	0	0	0	0	0	0	0	0	100	1
医療・福祉業	0	0	70	7	30	3	0	0	0	0	100	10
金融・保険業	38	5	46	6	15	2	0	0	0	0	100	13
公務	8	1	62	8	31	4	0	0	0	0	100	13
製造業	29	5	53	9	18	3	0	0	0	0	100	17
建設業	60	3	20	1	20	1	0	0	0	0	100	5
卸売・小売業	33	9	56	15	7	2	4	1	0	0	100	27
サービス業	43	3	57	4	0	0	0	0	0	0	100	7
不動産	0	0	100	1	0	0	0	0	0	0	100	1
電気・ガス・水道等	0	0	100	1	0	0	0	0	0	0	100	1
運輸業	100	1	0	0	0	0	0	0	0	0	100	1

1. 総評

社会人としての基盤能力の着実な養成全体として、本学卒業生は「人間性・社会性」および「対人・自己管理能力」において、就職先から極めて高い評価を得ている。特に主体性、責任感、協調性、柔軟性といった項目では、約8割の事業所が肯定的な評価を示しており、本学の教育が社会人としての強固な土台を形成していることが裏付けられた。

2. 項目別の達成状況と分析汎用的スキルの定着

「主体性・責任感」や「柔軟性・適応力」については、ほぼ全ての業種で安定した高評価を得ており、卒業生が現場で信頼を得て活躍している状況が窺える。一部の業種（公務、教育・学習支援業等）において相対的に数値が低調な傾向も見られるが、これは対人業務の難易度や要求水準の高さに起因するものと考えられ、致命的な不足があるわけではない。

3. 専門知識と実務の乖離

「専門知識・技能」については、卒業時・卒業後アンケートにおいては高い水準で認識されているものの、肯定的な評価が半数を下回る結果となった。これは本学での学びが不足しているというより、職場における実務が高度に専門化・現場化しており、「知識は入職後の実践で身につけるもの」という産業界の現状を反映していると推測される。一方で、約4割が「どちらともいえない」と回答している点は、大学教育と実務の接続に改善の余地があることを示唆している。

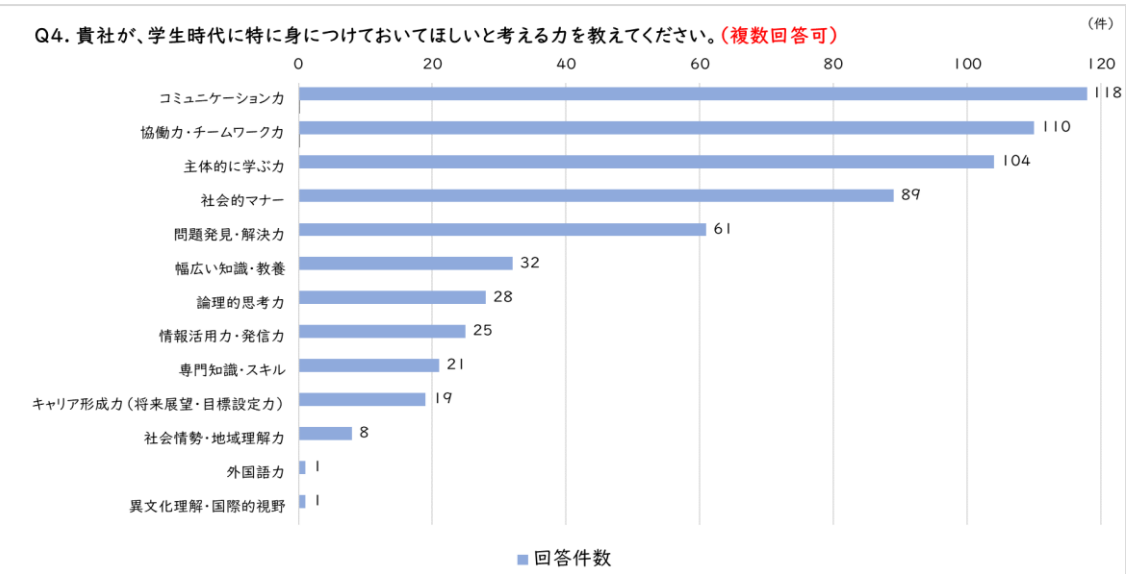
4. 思考力・情報活用能力の課題

「情報活用力」や「論理的思考・課題解決力」は、製造業や建設業で高く評価される一方、公務や教育・福祉分野で低調な傾向にある。これらの能力は現代社会において不可欠な能力であり、業種による評価の偏りを是正していく必要がある。

大学教育・学生に対する社会からの期待

学生時代に特に身につけておいてほしい能力として、「コミュニケーション力」、「協働力・チームワーク力」、「主体的に学ぶ力」、「社会的マナー」および「問題発見・解決力」が上位の項目を占めた。これらの項目は、総じて「人間力」と捉えることができ、大学での学びのみならず、学生時代の多様な経験を通して身につけてほしい能力である。このことは、「専門知識・スキル」や「論理的思考力」が上位の項目でないことから明らかである。つまり、就職先からは、学生の本分である勉学に加え、課外活動等を通じた幅広い経験も求められていると推測できる。

Q4. 貴社が、学生時代に特に身につけておいてほしいと考える力を教えてください。(複数回答可)

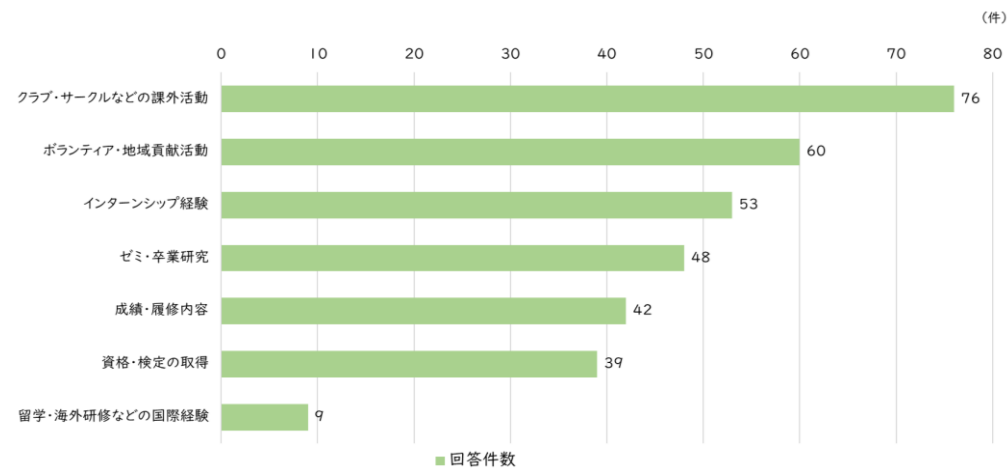


項 目	回答件数	(%)
コミュニケーション力	118	19%
協働力・チームワーク力	110	18%
主体的に学ぶ力	104	17%
社会的マナー	89	14%
問題発見・解決力	61	10%
幅広い知識・教養	32	5%
論理的思考力	28	5%
情報活用力・発信力	25	4%
専門知識・スキル	21	3%
キャリア形成力(将来展望・目標設定力)	19	3%
社会情勢・地域理解力	8	1%
外国語力	1	0%
異文化理解・国際的視野	1	0%
計	617	100%

採用時に重視される学修・経験

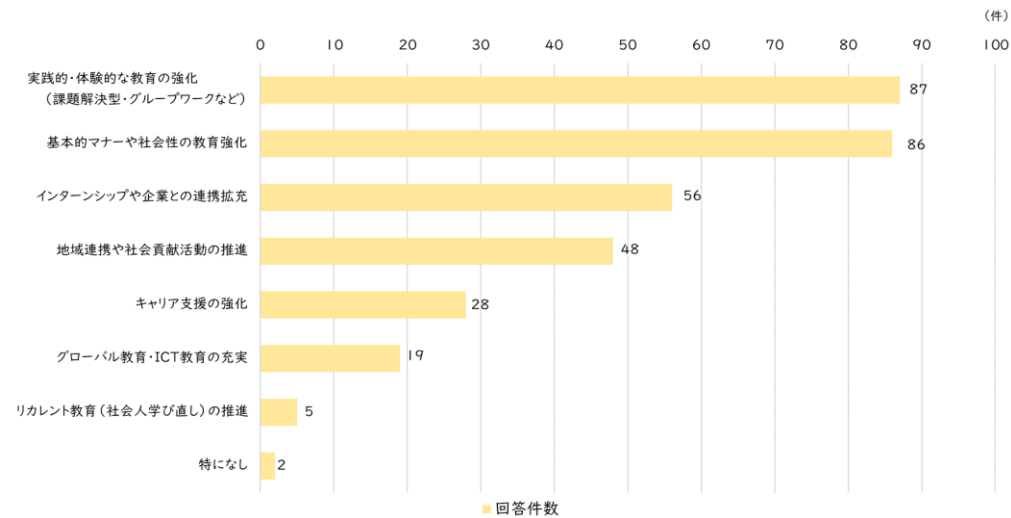
採用時の学修・経験では、「ゼミ・卒業研究」や「成績・履修内容」など、大学での勉学に直結するような学修・経験も重視されているが、「クラブ・サークルでの課外活動」、「ボランティア・地域貢献活動」、「インターンシップ経験」などがそれらを上回っている。また、本学への期待でも、「実践的・体験的な教育の強化」や「基本的マナーや社会性の教育強化」、「インターンシップや企業との連携拡充」、そして「地域連携や社会貢献活動の推進」などが上位を占めている。これらの結果から、社会人としての素養を備え、即戦力として活躍できる卒業生の輩出を期待しているものと推測できる。

Q5.採用の際、学生時代におけるどのような学修・経験を重視されますか。(複数選択可)



項 目	回答件数	(%)
クラブ・サークルなどの課外活動	76	23%
ボランティア・地域貢献活動	60	18%
インターンシップ経験	53	16%
ゼミ・卒業研究	48	15%
成績・履修内容	42	13%
資格・検定の取得	39	12%
留学・海外研修などの国際経験	9	3%
計	327	100%

Q6.今後、本学に期待する取り組みを教えてください。(複数回答可)



項 目	回答件数	(%)
実践的・体験的な教育の強化 (課題解決型・グループワークなど)	87	26%
基本的マナーや社会性の教育強化	86	26%
インターンシップや企業との連携拡充	56	17%
地域連携や社会貢献活動の推進	48	15%
キャリア支援の強化	28	8%
グローバル教育・ICT教育の充実	19	6%
リカレント教育(社会人学び直し)の推進	5	2%
特になし	2	1%
計	331	100%

卒業生に対する評価および本学への意見

本学卒業生に対する評価としては、「真面目」「誠実」「責任感」といった記述が多く、また「コミュニケーション力」「協調性」「主体性」に関する肯定的な記述も多く見られることから、組織内で周囲と関わりながら業務に取り組む姿勢が評価されている。さらに、「活躍している」「安心して任せられる」「継続して採用したい」といった記述も複数確認され、本学卒業生に対する評価は全体として良好であることが確認される。一方、一部には状況に応じた柔軟な対応力や積極性の一層の向上を期待する意見も見られた。

Q7.本学卒業生に対する全体的な印象をお聞かせください。

【真面目さ・誠実さ・責任感】

- ・真面目で誠実に仕事に取り組み、勤務態度や責任感が評価されている。
- ・素直で信頼でき、安心して業務を任せられる人材として受け止められている。

【職場での活躍・継続的な信頼】

- ・コミュニケーション力や協調性を発揮し、組織を支える人材として活躍している。
- ・本学卒業生の継続的な採用を期待する声が寄せられている。

【今後の成長が期待される点】

- ・状況の変化に応じて、自ら判断し、柔軟に対応する力の向上が期待されている。
- ・より積極的に行動し、困難にも粘り強く取り組む姿勢の育成が求められている。

卒業生に対する評価および本学への意見

卸売・小売業から多くの回答数が得られており、その評価もコミュニケーション力の高さやチームワークの良さ、さらに企業における中心的存在などの回答がほとんどであり、本学の卒業生がこの業種において中核的な人材として活躍していることが読み取れる。サービス業においては、地域貢献や多くの卒業生の入社など、卒業生が継続的に採用されている実績があると推測できる。今回の回答からは、否定的な評価はほとんどなく、ここに示された業種においては、卒業生がこれらの業種の特性に適した人材として十分に活躍していると判断できる。

Q7.本学卒業生に対する全体的な印象をお聞かせください。

業種別 出現傾向キーワード

教育・学習支援業	真面目/誠実/一生懸命・努力/主体性/成長・学び/人柄
情報通信業	前向き/素直
医療・福祉業	真面目/責任感/コミュニケーション/柔軟性/臨機応変さ
金融・保険業	真面目・誠実/基礎学力/協調性/コミュニケーション/積極性
公務	素直/積極性
製造業	コミュニケーション/柔軟性/チームワーク/主体性/責任感
建設業	主体性/行動力
卸売・小売業	コミュニケーション/主体性/協調性/真面目・誠実/接客力
サービス業	コミュニケーション/柔軟性/地域志向/活発さ
不動産	個性/人柄
電気・ガス・水道等	真面目/責任感
運輸業	責任感/正確性

※本表は、自由記述回答の内容をもとに、
各業種において特徴的に見られたキーワードを整理したものです。

教育・キャリア支援に関する自由記述においては、教職員による丁寧な支援など、本学の支援体制を評価する意見が多く見られた。一方、インターンシップのさらなる拡充や、OB・OG、企業・団体等と交流する機会の充実を求める具体的な提言も寄せられた。今後は、現在の支援を継続・充実させるとともに、学生が社会や仕事への理解を深められるよう、企業・地域社会との接点を一層広げることが期待されていると推測される。

Q8. 本学の教育・キャリア支援に関して、ご意見・ご提言があればご記入ください。

【教育・キャリア支援への評価】

- ・教職員による丁寧な指導や相談しやすい環境が評価されている。
- ・就職・教職支援を通じて、学生の意識や基礎力が育成されている。

【企業・社会との接点の充実】

- ・インターンシップや企業説明会、OB・OGとの交流機会を増やしてほしい。
- ・学生が幅広い業界や職種を知り、自分に合った進路を考える機会を充実してほしい。

【実践力・挑戦する力の育成】

- ・ICT活用、コミュニケーション力、社会人としての振る舞いを実践的に学ぶ機会を増やしてほしい。
- ・失敗や挫折から学び、課題に粘り強く取り組む姿勢を、今後さらに育てほしい。

本学卒業生に対する外部評価は極めて良好であり、安定した信頼を築いていると言える。アンケート結果の数値が示す通り、主要な汎用的スキル（主体性・責任感・協調性等）において約8割の事業所が肯定的な評価を下している事実は、本学の教育が社会人としての基礎力を形成していることを物語っているだろう。

特筆すべきは「人間性」に対する圧倒的な信頼である。自由記述においては、全業種から共通して寄せられた「誠実」「真面目」「実直」「素直」といった評価は、単なる表面的な礼儀正しさを超え、組織の一員として長く共同して働く上で最も重要視される信頼の源となっている。

しかし、これらの高評価の一方で、「論理的思考力・課題解決力」および「情報活用力」については改善が必要である。これらの能力は、他の評価項目と比較して「期待水準に達していない」あるいは「どちらともいえない」とする回答が多く見られた。また、自由記述で指摘された「真面目すぎるがゆえの臨機応変さの欠如」や「打たれ弱さ」は、マニュアルや指示には誠実に従うものの、正解のない事態に直面した際の「自律的な判断力」や、困難を乗り越える「精神的な強さ」において、企業等からの期待と現状の能力にギャップが存在することを示唆している。

総じて、「組織における誠実な構成員」として高く評価する一方で、「自主性・自律性」を備えた人材としての成長が求められているといえる。現在の実績を維持しつつ、指摘されたこれらの課題を改善することで、今後の評価をさらに高めるためられるようにしたい。

総括（社会ニーズとの関係）

本学の教育成果と社会ニーズを照合すると、現代社会が重視する「人間力中心の採用」と本学の教育方針は概ね一致している。

アンケートで「コミュニケーション力」や「主体的に学ぶ力」が上位となったことは、企業が特定の専門知識よりも「社会人としての基盤形成」を大学に期待していることを示す。

地域社会との適合性も高く、金融・卸売・サービス業から寄せられた「地元貢献への意識」や「地域への愛着」を持つ人材の評価は、本学の地域密着型教育の成果である。

さらに、企業は「仕事で必要な知識は現場で教える」とし、「探究心」や「学び続ける姿勢」を即戦力として重視している。そのため、インターンシップや地域連携への要請は、実践的教育の強化を求める産業界の期待を反映しているといえる。

一方で、DX時代に不可欠な「情報活用能力」や「論理的思考力」の伸び悩みは課題であり、今後は「豊かな人間性」に加えて「高度な思考力」を育成することが求められる。

総括（教育・支援への示唆）

本調査の結果から得られた教育・支援への示唆は多岐にわたるが、最も重要なのは「現在の強みをさらに磨き上げること」と「不足している部分を仕組みで補うこと」を同時に進めるということである。

まず、教育カリキュラムにおいては、「真面目だが臨機応変さに欠ける」という評価や「論理性」という課題に対して、多角的な視点から議論したり、自分の意見を筋道立ててまとめ他者に伝えられるようゼミなどの機会を通じてトレーニングしていく必要があるだろう。

次に、キャリア支援について、「大学との連携を強めたい」「インターンシップをもっと受け入れたい」という要望が多く、早期の段階から多様な業種や職種に触れる機会を作る必要性がある。また、社会で活躍するOB・OGとの対話を通じて「働くことの厳しさと喜び」を具体的にイメージさせたりすることで、就職後のミスマッチを防ぎ、学生が意欲的に就職活動に向かうことが可能となるだろう。

そして、「精神的な強さ」の強化も教育上の大きな課題である。「打たれ弱い」という評価の背景には、失敗を過度に恐れる傾向があると推測される。学生のうちに「失敗から学ぶ経験」を得られるよう、教員と学生が密接に関わるゼミ指導等の場面において「失敗を肯定し、再挑戦を促す指導」を徹底することが必要不可欠な視点である。

さらに、教育の「質」をしっかりと保証し、見える形にしていくことも重要である。「過年度卒業生アンケート」は、本学の掲げるディプロマ・ポリシーが本当に達成されているかを確かめる上で、非常に有効な手段である。大学での学びが卒業後の仕事にどう生かされているのか、あるいはどのような課題があるのか等を今後も継続的に把握し、その結果を大学の教育内容に反映させていく「循環の仕組み」を確立しなければならない。

総じて、本学の教育や支援がこれまで歩んできた方向性は間違っていないといえる。しかし、社会が大学に求める水準は、より高度で複雑なものへと変化している。これまで大切にしてきた「真面目」「誠実」「責任感」を備えた学生の輩出という伝統的な価値をしっかりと受け継ぎながら、「しなやかな柔軟性」と「自ら考える思考力」を付け加えていく必要がある。この二つを併せ持った教育・支援体制を築き上げていくことが、これからの本学の課題である。